喜多村康二名誉教授

喜多村康二名誉教授
年譜・著作目録

〈年　　譜〉

学歴・職歴

昭和34年3月　天理大学外国語学部英米学科卒業
昭和38年3月　東北大学大学院文学研究科英語英文学専攻修士課程修了
昭和40年3月　東北大学大学院文学研究科英語英文学専攻博士課程退学
昭和40年5月　天理大学助手（昭和42年3月まで）
昭和42年4月　天理大学専任講師（昭和46年3月まで）
昭和46年4月　天理大学助教授（昭和57年3月まで）
昭和57年4月　天理大学教授（平成元年3月まで）
昭和60年4月　天理大学外国語学部英米学科主任（平成元年3月まで）
平成元年4月　東北学院大学教養学部教授（平成4年3月まで）
平成元年4月　東北学院大学一般教育等運営委員会委員（英語部会主任）（平成4年3月まで）
平成2年4月　東北学院大学学生部副部長（平成4年3月まで）
平成4年4月　名古屋外国語大学外国語学部英米語科学科教授（平成26年3月まで）
平成4年4月　名古屋外国語大学入試作問委員（英語）主任（平成26年3月まで）
平成13年5月　名古屋外国語大学外国語学部教務委員長（平成26年3月まで）
平成14年4月　名古屋外国語大学教務部長（平成26年3月まで）
平成14年4月　名古屋外国語大学大学教務委員長（平成26年3月まで）
平成14年4月　名古屋外国語大学FD委員会作業部会コーディネイター（平成26年3月まで）
平成14年4月　名古屋外国語大学自己点検評価委員会作業チーム委員長（平成26年3月まで）
平成20年4月　名古屋外国語大学外国語学部教務主任（平成26年3月まで）
平成26年4月　名古屋外国語大学特任教授・法人参与（平成27年3月まで）
平成27年4月　名古屋外国語大学名誉教授

学会及び社会における活動等

昭和35年4月　東北英文学会会員（平成4年3月まで）
昭和40年5月　日本英文学会会員（平成27年3月まで）
昭和40年5月　日本シェイクスピア協会会員（平成27年3月まで）
昭和62年7月　日本英語検定協会試験委員（奈良地区）（平成17年3月まで）
平成5年10月　日本英文学会中部地方支部理事（平成14年10月まで）
平成6年10月　日本英文学会中部支部会員（平成27年3月まで）

平成10年4月　愛知日英協会会員（平成26年3月まで）
平成15年4月　JACET会員（平成26年3月まで）
平成16年4月　公益財団法人　大学基準協会　大学評価分科会評価委員（平成26年3月まで）
平成17年4月　日本リメディアル教育学会員（平成26年3月まで）

〈著作目録〉

（著書）

A Unique Approach to English Writing	単著	開文社出版	昭和50年1月

（学術論文）

シェイクスピアにおけるコントラストの基本的問題	単著	『天理大学学報』53	昭和41年12月
Hamlet についての一考察―主人公とOpheliaの関係	単著	『天理大学学報』54	昭和42年3月
シェイクスピア悲劇の主人公論―マクベスの巻	単著	『天理大学学報』60	昭和43年11月
クローディアスの世界	単著	『天理大学学報』61	昭和44年1月
天使？悪魔？それが問題―『ハムレット』における幽霊をめぐって	単著	『天理大学 ALBION』11	昭和44年9月
ブルータスにおける内的葛藤の意味	単著	『天理大学学報』64	昭和44年12月
Hamlet におけるGhost研究	単著	『天理大学学報』65	昭和45年3月
Macbeth における魔女論考	単著	『天理大学学報』68	昭和45年9月
Macbeth におけるコントラスト	単著	『天理大学学報』79	昭和47年3月
イヤーゴーの世界	単著	『天理大学学報』90	昭和49年3月
『リヤ王』試論―序幕とその周辺の問題―	単著	『天理大学学報』99	昭和50年9月
デズデモーナ受難とその背景	単著	『天理大学学報』106	昭和52年9月
シェイクスピアにとってのシャイロック	単著	『天理大学学報』109	昭和52年9月

人間観察者キャシアスについての一つの観察	単著	『天理大学学報』115	昭和53年9月
『オセロ』についての小論	単著	『天理大学学報』123	昭和55年3月
『ヴェニスの商人』における基調とその意味	単著	『天理大学学報』127	昭和55年9月
ポーシャへの一つの瞥見 ―『ヴェニスの商人』試論	単著	『KANSAI REVIEW』創刊号	昭和56年11月
『リヤ王』―その世界を支配するもの	単著	『天理大学学報』137	昭和58年3月
リヤ王の目	単著	『天理大学学報』143	昭和59年9月
英語教育の総合研究 (3) ―総合テスト導入の試み	単著	『東北学院大学論集(人間・言語・情報)』97	平成2年9月
『リヤ王』おけるパラドックスの意味	単著	『名古屋外国語大学紀要』第8号	平成4年7月
『ジュリアス・シーザー』主人公再考 ―ローマ文化史からの再考	単著	『名古屋外国語大学紀要』第15号	平成8年4月
ブルータスと内省	単著	『名古屋外国語大学紀要』第18号	平成10年7月
『ジュリアス・シーザー』のもう一人の主役―ローマ史との関連からの考察	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第20号	平成12年2月
*Julius Caesar*の人物たち―キャシアスを中心に	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第22号	平成13年8月
シーザーの存在―歴史とシェイクスピアの間で	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第24号	平成14年8月
ブルータスはシーザーを倒したか	単著	『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第29号	平成17年2月

(編注)

Stories from Chaucer's Canterbury Tales in Modern English	共編	金星堂	昭和53年12月
Best Short Stories of American Literature	共編	大阪教育図書	昭和58年2月

Selected Short Stories from America III	共編	東洋出版	昭和59年4月
The Discoverers	単編	金星堂	昭和63年12月
Brief Biographies of Famous Men and Women in Britain	単編	太陽社	平成8年4月

(調査、報告)

第2回外国語学部総合テスト報告	共著	『外国語教育』12 (天理大学外国語教育センター)	昭和61年3月
第3回外国語学部総合テスト報告	共著	『外国語教育』13 (天理大学外国語教育センター)	昭和62年3月
第4回外国語学部総合テスト報告	共著	『外国語教育』14 (天理大学外国語教育センター)	昭和63年3月
第5回外国語学部総合テスト報告	共著	『外国語教育』15 (天理大学外国語教育センター)	平成元年3月
2003年度英米語学科ニュージーランド研修(概要)	単著	*Napre* No.57	平成16年7月
2004年度英米語学科フレッシュマンキャンプ	単著	*Napre* No.57	平成16年7月

(口頭発表)

『ハムレット』をめぐる時の問題	東北大学大学院英文学ゼミ懇談会	昭和35年12月
*Macbeth*の一面―主題とコントラスト	東北大学大学院談話会	昭和36年9月
『ハムレット』の3種のテキスト序説	東北大学大学院特選題目研究会	昭和39年5月
『ヴェニスの商人』の基調	東北英文学会35回大会 福島大学	昭和55年10月
オセロの矜持とその崩壊への過程	関西英語英米文学研究会1回例会 奈良猿沢荘	昭和55年12月
リヤ王とその自己意識の問題	東北英文学会39回大会 盛岡大学	昭和59年10月

渡辺淳一『氷紋』における愛の葛藤とその結末―英文学の視座からの解題		神戸文学会『鍵』 神戸市兵庫県民会館	平成5年3月
水上勉の世界『越前竹人形』における異形の愛―ハムレットの愛のあり方との比較		神戸文学会『鍵』 神戸市兵庫県民会館	平成5年7月
セメスター制導入について		一般教育学会第16回大会研究交流部会Ⅳ「外国語教育の動向」パネリストとして参加 名古屋大学	平成6年6月
*Hamlet*の亡霊をめぐって		名古屋外国語大学学園講座46回 名古屋外国語大学	平成9年4月

(その他)

シェイクスピア時代の金利	単著	『天理大学広報』48	昭和52年10月
大岡昇平著『ハムレット日記』再読	単著	『天理大学広報』91	昭和60年7月
「現代学生の一つの特徴」	単著	『ひまわり』41号 木村・浦川法律事務所	平成13年4月1日
エッセイ「優しい風土と人」 ～ニュージーランドの場合	単著	*Napre*　No.53	平成13年12月

(その他：講演)

講演「イギリスという国」	東大寺学園保護者会 奈良ガーデンホテル	平成10年6月27日
平成19年度第1回FD講演会　講演「本学におけるFD導入の経緯について」並びに司会と運営	名古屋外国語大学	平成19年5月12日
平成19年度第2回FD講演会　講演「大学に求められる自己改革力」運営および司会　講師　工藤潤・大学基準協会主幹	名古屋外国語大学	平成19年7月21日
平成19年度第3回FD講演会・シンポジウム「文字と音声」運営および司会	名古屋外国語大学	平成19年11月27日

生涯学習セミナー第8回　講演「近代ロマンの人間模様　ニュートン―その人生と彼が求めたもの」	奈良市生涯教育振興財団 奈良市中部公民館	平成19年12月21日
平成20年度第4回FD講演会　講演「避けて通れなくなった著作権」運営および司会　講師　岡本薫・政策研究大学院大学教授	名古屋外国語大学	平成20年6月28日
講演会（学生向）「自由と民主主義と著作権」運営　講師　岡本薫・政策研究大学院大学教授	名古屋外国語大学	平成20年7月2日
FD特別講演会　創設20周年特別講演「学士課程の再構築とは何か」運営および司会　講師　絹川正吉・国際基督教大学前学長	名古屋外国語大学	平成20年11月29日
生涯学習セミナー第9回　講演「ガリレオが発見した真理とは何か」	奈良市生涯教育振興財団 奈良市中部公民館	平成20年12月19日
平成21年度第5回FD講演会・シンポジウム1「本学における教養教育―現状と今後の課題」運営および司会　講師　水谷修学長ほか	名古屋外国語大学	平成21年11月30日
平成22年度第6回FD講演会　講演「就業力向上に関する大学を取り巻く状況」	名古屋外国語大学	平成23年1月11日
平成23年度第7回FD講演会　運営および司会 「本学における留学制度の課題と展望」	名古屋外国語大学	平成23年7月11日
2012大学教育改革地域フォーラムin愛知県立大学「授業時間内外における学生の主体的な学びをどのように保証するのか」パネリストとして参加	愛知県立大学	平成24年7月4日
平成24年度第8回FD講演会「グローバル人材育成のために」運営および司会　講師　亀山郁夫・東京外国語大学長	名古屋外国語大学	平成年24月10日

大学基準協会による「助言」に対する回答書作成および提出	名古屋外国語大学および大学基準協会	平成25年7月25日
平成25年度第9回FDシンポジウム「初修分野専攻学生への教育上の課題と展望」運営および司会	名古屋外国語大学	平成26年3月18日
フランス研究教育高等教育評価機構の調査と意見交換のための訪仏	フランス研究高等教育機構　パリ市ヴィヴィエンヌ通り20	平成26年3月25日
OECDでの大学認証評価　問題に関する調査と意見交換	OECD　パリ市アンドレ―パスカル通り2	平成26年3月26日
本学CS教育拡充の可能性を求めて－Aviation Studies（特にFO問題）についての調査	桜美林大学	平成26年7月30日
Aviation Program（FO問題を含む）の実践教育についての調査	中日本航空専門学校	平成26年8月28日

献　辞

喜多村康二教授は2015年3月末日をもって名古屋外国語大学を退職されました。先生の本学在職中の多年にわたるご功績により、2015年4月1日付で名古屋外国語大学名誉教授の称号が授与されています。

喜多村先生は1936年9月8日に大阪市でお生まれになり、天理大学外国語学部英米学科で学ばれ、同大学を1959年3月に卒業しておられます。その後、東北大学大学院文学研究科英語英文学専攻修士課程に入学され、1963年3月に同課程を修了しておられます。博士課程に進学した後、1965年3月に同課程を退学されています。

英語教師としてお勤めになられたのは1965年5月で、天理大学で助手、専任講師、助教授、教授を経て1989年3月まで教鞭を執られました。その後、東北学院大学教授を経て、本学に教授として1992年4月に着任されました。本年3月末のご退職に至るまで教員歴は実に50年に及びます。

研究業績につきましては大学生向けの3冊の英語教科書と28編の学術論文がございます。いずれも先生の幅広い学際的な文化研究が基調となっています。たとえば、著書3ではブリテン島の多様な文化形成に貢献した30数名の評伝である *Brief Biographies of Famous Men and Women in Britain*（太陽社）について、詳細な付注作業だけでなく、作品解題、史実、時代的背景などの綿密な解説を加え、イギリス文化史への理解への方向づけを試みておられます。学術論文は、ご専門のシェイクスピア研究が中心で、作劇上の技法の特質や登場人物の性格・言動などを当時の時代的背景や思考様式との関係で分析し、高い見識と深い洞察に基づく研究を多数発表しておられます。

教育･学生指導につきましては、学科の多数の海外研修の企画、運営、実施、引率指導を行っていただきました。アメリカのセントラルフロリダ大学、英国バース教育大学、ニュージーランドのマセイ大学、カナダのトロ

ント大学、オーストラリアのアデレード大学やタスマニア大学などでの海外研修などに関わっていただき、最近では国立フィティレイアニュージーランドでの中期留学の企画に関与していただいています。

学内運営につきましては、本学外国語学部教務委員会委員を1996年4月から2年間お務めになられ、1999年実施のカリキュラム改正の準備をされた後、2002年4月から2014年3月まで12年間の長きにわたって教務部長の重責を担われ、PUT科目開設やカリキュラム改革、IT教育の強化、両学部の均衡のとれた良質な教育環境の保持に取り組み、本学の学務運営に統括的な立場で多大な貢献をしてくださいました。この間、名古屋外国語大学FD委員会作業プロジェクトチーム委員長、自己点検評価作業チーム委員長もお引き受けになり、学生による授業評価の仕組みの導入と『平成15年度名古屋外国語大学自己点検・評価報告書』ならびに『平成22年度名古屋外国語大学自己点検・評価報告書』の執筆・校閲の職務を遂行されています。

喜多村先生は、常に冷静で誰にも公正な立場で接してくださいました。法律に大変関心をもっておられ、時折お会いした時には、法解釈に基づいて大学の問題・課題について熱心にお話くださいました。常に背筋を伸ばして、年齢を全く感じさせず、滔々とお話しくださる先生には理路整然としたお話の内容とともに先生ご自身の健康の秘訣について伺いたいと思ったのは私だけではないと考えます。

先生にお会いできなくなるのは大変残念ですし、まだまだご指導いただきたいことが多いのですが、長年にわたる本学への多大な貢献に深く感謝し、先生の今後のますますのご活躍と研究の進展を祈念して、献呈の辞とさせていただきます。

2015年4月1日

英米語学科教授

高梨　芳郎